

すべての災害ゼロ 実現に向けた取り組み

千住金属工業グループは、休業災害のみならず不労災害も含めて、一切の労働災害を許さない“災害ゼロ”を目標に掲げ、安全衛生に取り組んでいます。

「安全衛生」における当社の考え方 **P.30** 参照(労働安全衛生)

安全衛生に対する従業員の意識向上や機械設備の安全技術の進歩など、これまで長年取り組んできた成果により、休業につながるような重大害が減少し、近年は僅少です。しかし、近年増加している転倒や軽い怪我などの不労災害であっても同様に受け止め、万が一発生した場合は原因把握・分析のうえ対策を講じ、再発防止に努めています。当社は「どんなに小さな災害も引き起こしてはならない」という考えのもと、従業員の安全と健康を第一に取り組んでいます。

安全管理に向けた取り組み

安全衛生管理体制 **P.30** 参照

当社は法令に則り、事業所の規模に応じて安全衛生管理体制を敷いています。常時300人以上の従業員がいる事業所の体制は右図の通りとなります。総括安全衛生管理者である事業所長は、安全衛生委員会の委員長として業務の統轄管理をしています。安全管理者および衛生管理者は、一定の資格を有する者のうちから選任しています。



危険を未然に防止する活動

危険度分析と評価

ヒヤリハット活動（ヒヤリやハットした体験に対し、危険回避の方法を事前に取り組む）や危険予知（KY）活動（作業開始前に危険を見つけ、事前回避する取り組み）によってリスクを除去・低減してきたことにより、重大災害にあたる件数は大きく減少しました。現在はリスクアセスメントを中心に、リスク低減に取り組んでいます。

リスクアセスメントの実施

各職場における危険性・有害性を特定し、それによる労働災害の程度とその災害が発生する可能性の度合いからリスクを見積り、優先度を決めています。リスクが除去又は低減されるまで対策の検討・実施・記録を繰り返しています。

〈例〉

危険源(ハザード)	程度	可能性	リスクLv
階段で躓きそうになった	2	2	II
指を挟まれそうになった	5	3	IV

無災害・誓いの門

栃木事業所松山工場の駐車場に面した通用口に「無災害・誓いの門」を設置しています。門には、無災害記録日数とともに「この門を通ることにより私は安全と健康を誓います」「安全作業への入り口・今日もご安全に!」と掲示することで、社員の安全意識向上に努めています。



+ 取り組みPICK UP

✓ 安全の集い

安全衛生委員会の定例会議の他に、社員の安全衛生への理解を深めるため年3回、安全の集いを開催しています。毎回テーマを決め、安全の情報交換の場として企画し、安全衛生に関する意識向上と、維持に役立てています。



安全衛生委員会定例会議の様子(本社)

救命講習の実施 **P.15** 参照 (AEDの設置)

各部署から受講者を募集し、消防庁主催の救命講習を定期的に行っています。当社は、昨年11月に千住消防署より感謝状を授与されました。



✓ 職場の健康管理

- 健康診断二次検査の受診費負担
- インフルエンザ出張予防接種 (本社・栃木事業所・草加事業所)



● 作業環境測定

作業環境測定士がサンプリングを行い、全体的な作業環境に問題がないか測定しています。



✓ 非常事態発生時の避難経路の整備

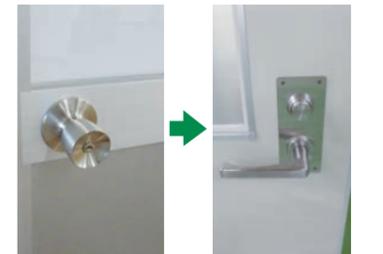
スプリンクラー・ファイアイレイスの自主設置 **P.16** 参照

栃木事業所松山工場内の一部では避難経路沿いおよび溶解炉のあるエリアに水道連結型のスプリンクラーを設置しました。また、産業分析センターではドラフトチャンバー5か所にファイアイレイス(消火剤)を設置。他拠点へも同様の設置を検討しています。



非常口ドアの改修 **P.16** 参照

従業員が災害時に安全かつ速やかに避難できるようにRBA (Responsible Business Alliance)の基準に則り、建屋の非常口をワンアクションで開けられるドアに改修しています。2023年5月時点で千住金属工業本社および国内事業所・国内関連子会社の改修が完了しています。



握り玉タイプ

レバータイプ

安全対策と衛生管理の取り組み

① 熱中症対策

一例

- 保冷剤



② 自動化・ロボット化

一例

- AGV(無人搬送車)
- はんだピレット自動製造ロボット
- 取り出しロボット
- 自動梱包ロボット



③ 安全巡回

毎月、安全衛生委員が各職場の安全巡回を実施。不安全箇所や行動の懸念事項を指摘し、是正されるまでフォローアップを行う。

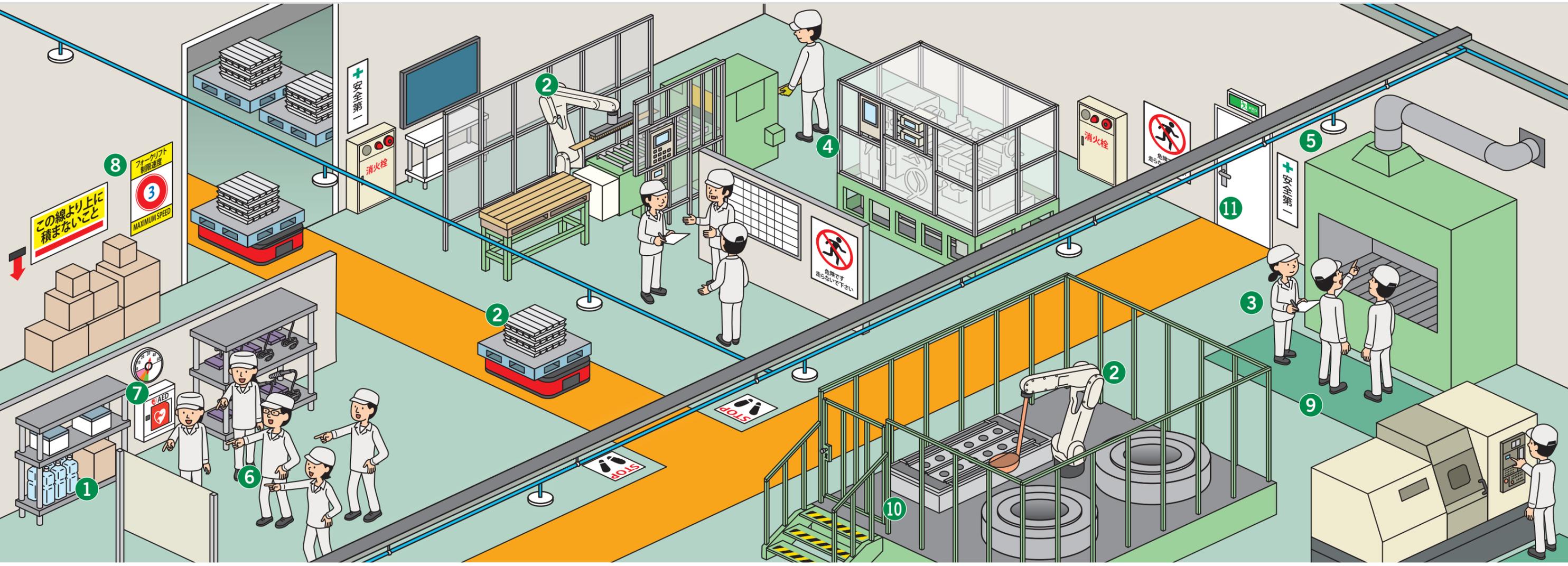


④ 安全検収

新規および改修設備は使用前に安全性を確認し評価。危険が生じる恐れのある場合、物理的防御、インターロック、安全制御装置を設置。



⑤ スプリンクラー・ファイアイレイスの自主設置

⑥ 安全コール唱和

⑦ AEDの設置

消防署ご協力のもと、AED操作方法と心肺蘇生法についての救命講習を定期的実施。



⑧ 安全標識



⑨ 個人用保護具

一例

- 安全靴
- 保護マスク



⑩ 転倒防止

一例

- 手摺り
- 階段滑り止め
- 転倒注意テント
- 注意喚起



⑪ 非常口ドアの改修



Safety & Health

全員が安心して働ける職場を目指して

千住金属工業は事業所ごとに安全衛生委員会を設け、それぞれの委員会が中心となって安全衛生に取り組んでいます。今回は、各事業所で中核となって推進している3名が集まり、これからの安全衛生について語りました。



安全衛生委員
Leader's Talk

草加事業所
副委員長
FA製造部
生産課 課長
山岸 伸治

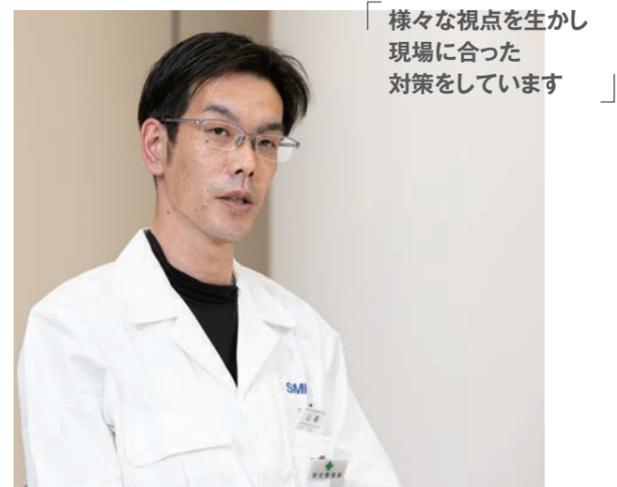
栃木事業所(松山工場)
衛生管理者
栃木管理部
総務課 課長
江川 昌子

関西事業所
安全管理者
西脇工場
関西生産管理課 課長代理
山崎 浩史

多様性を生かした各事業所の特徴

江川 栃木事業所の安全衛生委員会は、各部署の職場リーダー以上で構成しています。安全巡回中、危険と見られる場面に遭遇した際、その場で制止する必要がありますので、一定の

権限を持った立場であることとしています。私を含め女性が多名かいますが、例えば疲労軽減マットや背丈に合わせた作業台の設置などは女性の意見が生かされています。また、性別に関わらず、異性に対するAEDの使用に抵抗があるとの声から、2023年は女性を対象としたAED講習会を実施しました。



「様々な視点を生かし
現場に合った
対策をしています」

山岸 草加事業所でも、栃木事業所と同様に安全衛生委員は職場リーダー以上で選任しています。安全巡回では、自分の職場以外をチェックすることで、見慣れていない場所で感じる危険箇所を発見し、対策や改善に取り組むことが有効的に働いています。また、事業所の規模が大きいからこそ、様々な人の意見を聞くようにしており、清掃用品の充実やトイレの音漏れ対策などの衛生に関わることも、働きやすい職場につながるよう取り組んでいます。

山崎 関西事業所では、以前は人数が少ないということもあり、同じ人がずっと安全衛生委員を担当していたのですが、最近は事業所の人員が増加したので、各職場・各部署から最低1名を選任するようにしています。中途社員にも積極的に

携わってもらい、前職の事例や経験を参考に現場に合ったやり方に対策することで様々な視点を活かしています。

労働災害の傾向と対策

江川 30年程前の労働災害(以下、労災)では「挟まれ」や「火傷」が多数を占めていました。昨今は大きな災害が減り、「転倒」による労災が増えています。リスクアセスメントを活用し、年々進化させることで、被害やリスクを最小限に抑制できるようにしています。また、身体的な怪我に加え精神疾患の予防も外せません。その例として、ストレスチェック制度は、現代社会を反映した取り組みだと感じています。

山岸 草加事業所でも近年は、作業中ではなく、階段の昇降や移動・通勤時の「転倒」割合が増えていますね。そのため階段の一段飛ばしや小走りに対しても、注意喚起を行っています。一人ひとりが安全意識を持つことで、労災防止につながると思いますので、繰り返し周知していくことは大事ですね。また、草加事業所は、取引先から安全に対するアナウンスやご提案を頂きますので、第三者の視点も参考にさせていただき、取り組んでいます。



「一人ひとりが
安全意識を
持つことが重要です」

山崎 関西事業所では、他事業所の取り組みや、労災時の対応策を参考にしています。労災が発生した際はすぐに職場リーダー以上に連絡され、同様の危険箇所があれば、即時対策を講じるようにしています。また安全衛生委員長である事業所長から、常に様々な場面で安全衛生に関するアナウンスがあり、社員の意識向上につながっていると感じています。現在のところ重大災害は発生していませんが、私も一人ひとりへの意識付けは重要と考えています。



「健康で安全に
働き続けて
もらいたいと
思っています」

労働災害を許さない“災害ゼロ”を目指して

山岸 労災は、意識が薄れたときに発生してしまうことが多いです。経験者は二度と同じ目に遭わないようにと意識付けられていますが、新入社員など未経験者に意識を持ってもらうのが課題です。注意喚起や定期的な周知活動は継続することのひとつですね。安全の見える化に取り組み、すべての労働災害発生ゼロを目指しています。

山崎 従業員が増え、各拠点で様々な業務を行っているため、労災のケースも変化し、広がっています。最近では“歩きスマホ”をよく目にするようになり、そのような行為が労災につながる恐れがあるということに注意喚起し、一人ひとり意識を持ってもらう必要があります。また、他拠点の取り組みを参考に取入れた対策をさらに別の拠点に情報共有するなど、各事業所との委員会のつながりをさらに有効活用していきたいです。

江川 定年が引き上げられ、働く年数は長くなります。そのため、健康で安全に働き続けてもらい、元気に退職を迎えてほしいと考えています。現在、若年層の方でも将来につながることで、長く働ける職場づくりを推進したいです。また、昨今は設備や道具から「身体を守る」ことに加え、人と人の「心を守る」ことも重要になっています。だからこそ全員が安全衛生に関わってきます。一人ひとりが主人公であり、みんなが取り組むことであることを根付かせていきたいですね。

一同 ありがとうございました。